

238) 愛ひたすら

東京に来て2年が過ぎて	少し大人になった気がした
薄化粧して街を歩いて	そんな3月あなたに逢った
あなたが描く大きな夢に	わたしはとても魅 ^ひ かれていった
お金などなかったけれど	愛し合い ^{しあわ} 倖 ^ひ せだった
いつか見た映画みたいに	人生が輝いていた
愛さえあれば何もいらぬ	そう信じてたあのころだった
生きてくだけで精一杯で	あなただけしか見えなかったの
あなたわたしの瞳を見つめ	力一杯抱きしめたのよ
永遠の愛を信じて	愛し合い2年が過ぎた
優しさに包まれながら	毎日が満たされていた
二人の愛が崩れ去った日	外には雪が降り積もってた
さよならとだけあなたは言う	足跡残し出ていったのよ
誕生日には毎年逢おうと	指切りした日あったけれども
今はもう昔話ね	歳月は過ぎ去って行く
悲しかったあの日の雪が	今日もまた降り積もってる
たったひとつの愛を信じて	今日まで一人生きてきました
あなたはきっと好い人見つけ	私のことは忘れたでしょう
倖せならばそれでいいけど	^{ひとり} 孤独だったらめぐり逢いたい
若き日の恋ものがたり	追いかけて涙してます
遠ざかる初恋の日々	今はただ懐かしむだけ